

あらためて人権を考える



皆さんは国連が制定している国際デーをご存知でしょうか？国際デーとは、国連総会やさまざまな国連専門機関によって宣言されます。特定の日、または一年間を通じて、平和と安全、開発、人権/人道の問題など、ひとつの特定のテーマを設定し、国際社会の関心を喚起し、取り組みを促すため制定します。(国試連合広報センターより)

人権に関係する6月の国際デーは以下の通りです。

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|----------------------|
| 6/1 国際こどもの日 | 6/15 世界高齢者虐待啓発デー | 6/20 世界難民の日 |
| 6/4 侵略による罪のない幼児犠牲者の国際デー | 6/19 紛争下の性的暴力根絶のための国際デー | 6/26 拷問の犠牲者を支援する国際デー |
| 6/12 児童労働に反対する世界デー | | |

本来であれば、特定の日でなくても、日頃より意識高く、そのテーマに関して関心を持つべきだと思いますが、実際には問題提起が多すぎて、次から次へ意識も一緒に流れてしまいがちです。しかし、最も重要なことは、たとえ自分とは無関係のテーマや遠い国で起こっていることであっても、関心を持ち想いを馳せるということです。

決して人ごとではいけません。それが人を想い自分ごとのように考える人権意識の幹の部分だと思います。人権に関する国際デーは他にもたくさんあります。国際デーを通して、そのテーマについて考える、自分の人権感覚を確認することは、自分の置かれた立場を確認する意味でも必要だと思います。

自分を知ること世界を知ること視野が広がります。視野が広がれば周りが見えるので、誰が何に困っているのか？自分にできることがあるのか？を具体的冷静的に判断することができます。人は一人では生きられません。相互扶助の精神で人権意識を持って弱者に手を差し伸べられる社会の実現は、多くの人の人権意識によって作られます。その人権意識が薄らぐことがないよう、国際デーをあらためて人権を考える機会にしてはと思います。



民間と行政との協働で生まれるもの

人権は人間社会の中でも非常に重要であり守られるべきものです。私どもは民間団体として人権啓発・人権擁護に関わる活動を続けております。一方、行政の方々も、市民を守るべく人権啓発・人権擁護を行っています。立場は違えど、人権意識を広げ誰もが幸せを感じ住みやすい社会を作る目的は同じです。その立場の違いはできることの違いとも言えます。だからこそ、ある意味役割が異なる民間と行政が協働で行うことで、より多くの人たちに広く人権を伝えること、手を差し伸べ守ることができるのだと思います。そこに協働で推進していくことの意味と価値があると言えます。

人は不完全なもので、失敗もすれば人を傷つけてしまうこともあります。人権についても全て完璧に行動できるとは限りません。だからこそ、それを自分自身で問いかけ続けることが大切であり、より一生懸命に人に対して思い考えることが必要です。

民間である私たちも行政の方々も、高い人権意識を持って行動することが求められます。立場が違うからこそ、異なる側面で助け問題解決できることがあります。力を合わせて協働で生まれるもの、その意味と価値がより大きなものとなることで、より多くの人たちが助かる、誰もが幸せを感じ住みやすい社会になることを願います。

今後の予定

人権啓発パネル展 7月6日(火)～7月18日(日)、市立甲府図書館・甲府市中央公民館

人権移動教室 7月7日(水)、甲府市立笛南中学校、7月15日(木)、甲府市立湯田小学校

裏面に続きます



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

協賛企業：(株)成心設備、西関東開発(株)、(株)ウィルマート、(株)R&C、(株)フジコー、(株)渡辺工業所、甲府市管工事協同組合

<協賛>
山梨県
甲府市
甲斐市

自然に親しむ体験をもっと子どもたちに

自然体験の蓄積が育む “生きる力”

自然に恵まれている山梨県でも、子ども達が野山を駆け回って遊んだり農作業に関わるなど自然に触れる機会は、昔と比べてかなり減っているように思います。おもちゃメーカーの株式会社バンダイが小中学生を対象に行った調査(2018年)では、遊び場所の1位は「自宅」で92.1%。2位の「公園」49.3%の約2倍近くに達しました。また、遊びの種類では、コンピュータ・ゲーム遊びが首位を占め、サッカーやドッジボールなどの球技がそれに次いでいます。

信州大学の平野吉直教授が小学4～6年生を対象に行なった調査によると、自然体験活動を多く経験した子どもには、課題解決能力や豊かな人間性など「生きる力」が身につけやすい、とのことでした。

また、自然体験活動をたくさん行なったグループほど、「分からないことは、そのままにしないで調べることが多い」、「誰とでも協力してグループ活動ができる」「相手の立場になって考えることができる」などの項目に「当てはまる」と答えました。

子どもの健全な成長のためには、座学の授業やコンピュータ・ゲームなどの間接体験だけでは不十分です。豊かな自然に触れたり農園芸や手づくり工作など、直接体験の積み重ねが大切だと思います。



自然体験教育を推進するために

学校教育でも、文部科学省が推進する“コミュニティ・スクール”等の制度を活用し、教師だけでなく地域の有志も協力して、充実した自然体験教育をもっと推進すべきと思います。例えば、昭和町の押原小学校では、多くの地域ボランティアが協力して、校舎治いの“緑のカーテンづくり”や“カブトムシの杜づくり”、学校農園での“米づくり”など、自然と関わり生命を育む体験教育を積極的に実践しています。

また、南アルプス市徳永にある私立の「南アルプス子どもの村小中学校」では、学習の中心は“プロジェクト”と呼ばれる活動的な体験学習です。その多くは、子ども達(上級生と下級生が一緒のチーム)が自主的に企画して取り組む木造の建物づくりや農園芸・料理、工作など戸外での“ものづくり”です。子どもたちは自分がやりたいプロジェクトを選び、自ら課題を設定し、考える力を身につけます。

なお、この学校の活動を紹介するドキュメンタリー映画「夢みる小学校」が、今年冬頃に全国で公開予定とのことでした。(※1) 海外でも、米国発祥の「エディブル・スクールヤード」(直訳：食べられる校庭→学校農園を活用した“共に育て共に食べる”いのちの教育)などの取り組みが世界に広がっています。(※2)

こうした取り組みも参考にしつつ、学校や幼稚園・保育園、子どもクラブ等と地域ボランティアの連携により、子どもの自然体験教育をもっと豊かにしていければと願っています。

※1 「南アルプス子どもの村学園」のドキュメンタリー映画「夢みる小学校」紹介サイト



※2 エディブル・エデュケーション(学校菜園での栽培・食育教育)の紹介サイト



甲府市で行われるパネル展

命の大切さを伝え、思いやりのある社会を目指し、継続して開催しているパネル展です。今年度、甲府市内では以下のスケジュールでの開催を予定しております。参加費は無料です。お近くの会場にお越しください。

〔開催期間〕 2020年7月7日(火)～7月19日(日)
〔開催場所〕 甲府市中央公民館 / 甲府市立図書館

〔開催期間〕 2020年8月12日(水)～8月17日(月)
〔開催場所〕 甲府市総合市民会館

〔開催期間〕 2020年9月10日(木)～9月23日(水)
〔開催場所〕 甲府市東公民館 / 甲府市西公民館

〔開催期間〕 2020年11月5日(木)～11月18日(水)
〔開催場所〕 市立甲府病院 / 甲府市中道公民館

〔開催期間〕 2020年12月3日(木)～12月16日(水)
〔開催場所〕 甲府市北公民館 / 甲府市南公民館

〔開催期間〕 2021年2月4日(木)～2月17日(水)
〔開催場所〕 甲府市役所 / 甲府市南西公民館

※開催時間や休館日については、それぞれの施設によって異なります。掲載内容は予定です、変更することがございます。予めご了承ください。